大地から小さな学校のおたより

ブラジル第３アリアンサ富山県日本語学校便り　　ＮＯ２０　最終号

　最後のブラジルは、皆さんとのお別れ会の日々が続き、いろいろな思い出が蘇ってきました。サンパウロ州の奥地の広大な大地にあるもう一つの富山に思いを馳せながら、最後の日々を過ごしました。過疎化の中にあったもう一つの富山は、必ずしも元気があったかと言うとそうではありませんでしたが、皆さんの笑顔がとても素敵で、少なくなった子どもたちは相変わらず元気で、いつまでもこの村が元気でいてくれるようにと祈りながら皆さんとお別れをしました。
　今月号は私が送るお便りの最終号です。この号では、ブラジルにいるみなさんに向けての手紙を書きたいと思います。

拝啓、
　日本はやはり寒く、ブラジルの青空が私の頭の中に、そして体全体で蘇ってきました。「帰りたい」、成田空港に着いた途端に自分の気持ちがブラジルへと向いていました。

　みなさんお元気ですか。私は無事に日本に着きました。みなさんが最後に歌っていただいた「蛍の光」を背に、ミランドポリスのバス停へ、そしてサンパウロへ、まるで一方通行のように日本へ近づく度に多くの思い出が蘇ってきました。日本語で歌っていただいた「蛍の光」は、遠く日本にいながらも、皆さんが身近にいるような思いをさせてくれます。
　私は、子どもたちが日本語を話せるようになるためにはどうしたら良いのか、日々悩みながら１年半を過ごし、言葉通りあっという間に日本へ帰ってしまいました。皆さんはもっと子どもたちに日本語を教えてほしいと思っていることでしょう。移り変わる時代の中で、皆さんの気持ちが、「日本文化を伝えなければならない」との思いが強くなり、そして日々奮闘している姿を私は目の当たりにしてきました。私はどれだけのことができたか分かりませんが、皆さんが抱える問題に、私なりに誠実に対応してきたと私は思っています。子どもたちは、少しは日本語を覚えたようですね。そして村の皆さんも、少しは元気になりましたね。もちろんいろんな問題もありましたが、時間が経つにつれ、「子どもたちが日本語を話すようになってきた」その変化を見るたびに、皆さんの笑顔を見ることができました。

　私がお世話になったホームステイ先の西田さん。本当にありがとうございます。お父さんお母さんだと今でも思っています。お父さんお母さんが話をする時は富山弁が出ていましたね。私がブラジルにいても寂しくならなかったのはお父さんとお母さんのおかげです。つらい時には一緒に悩んでくれて、うれしい時は一緒に喜んでくれ、日本に残してきた両親の心配もしてくれました。お孫さんの名前は「小百合」という名前にして漢字を私がつけましたね。「さゆり、さゆり…」と呼ぶ二人の笑顔が忘れられません。

子どもたちには、少し厳しく変わった先生だったのかも知れませんね。でも私は先生でいる限り、君たちには「勉強しろ」としか言わないのだと思います。「勉強なんかしなくてもいいよ」なんて言う先生にはなれません。なぜなら、君たちが大人になれば分かります。大人になっても多くの勉強をしなければならないからです。遊んでいて勉強ができる。そんなことができたら、世界中の人が苦労をしません。一つでも、簡単なことでも、何でもいいから勉強してください。日系社会を支える前に、ブラジル社会を支える前に、目の前にある自分のことをまず頑張ってみてください。サッカーで負けたら悔しいと思うのであれば、勉強できないことに悔しさを感じてみてください。

でも先生はこの１年半の間に君たちが多くの日本語を覚えたことを見てきました。知らない間に「あいつに負けたくない」「日本語能力試験 3 級受かりたい」なんて言い出し、一生懸命勉強し始めましたね。自分で目標を上げることもとても素敵なことだと思っていましたが、それよりも、先生や村の人たちのお手伝いもできるようになってきました。君たちが元気に一生懸命何かをするだけで、村のみんなが幸せになりました。お父さんお母さんも幸せになりました。自分のために頑張っているだけで人が幸せになる環境にいることは、とても幸せなことだと先生は思っています。だからもっともっと勉強をしてみてください。　どこでも笑顔を絶やさず、先生のことはどれだけ嫌ってもいい、自分の未来のために一生懸命勉強してください。きっとそのことがブラジルを支え、日本との架け橋になるのだと先生は信じています。

最後に、多くの思い出と、なによりも私に皆さまの素晴らしさ、ブラジルの素晴らしさを伝えていただき本当にありがとうございます。今年は富山県移民 100 年の年です。第３アリアンサ富山村に住む富山県人以外の人もみんなが支えた第３アリアンサは確実に私の脳裏に焼きつき、後世に伝えていきたいと思っています。またお会いできる日は約束しません。いつ会えるか分からないからこそ、「蛍の光」を胸に、いつまでもご健康でいることを心から、心から、祈っています。

敬具

日本国富山県　玉分昭光

今まで、「大地から小さな学校のお便り」を読んでいただきありがとうございます。私の任期は終わりました。今度は新しく、次の教諭が派遣されることになりました。今年は富山県ブラジル移民 100 周年の記念の年になります。移民の歴史は身近にあり、私たち富山県民もその歴史の中に生きています。少しでも次の教諭の応援をしてくださるようお願いします。また、第３アリアンサにはまだ富山県民の人たちがいます。ブラジル全体でも富山県人会のメンバーがたくさんいます。時代の流れでそのことがそれほど知られていません。今年の 100 周年、そしてブラジルワールドカップ、リオオリンピックなど開催される度に、第３アリアンサを思い出し、もう一つの富山を考える機会を増やしていただけると、私はとてもうれしいです。今まで本当にありがとうございました。

今月号の挿絵「大地の日記、―思い出―」2010 年３月制作